神流川合戦古戦場跡（埼玉県・群馬県境）

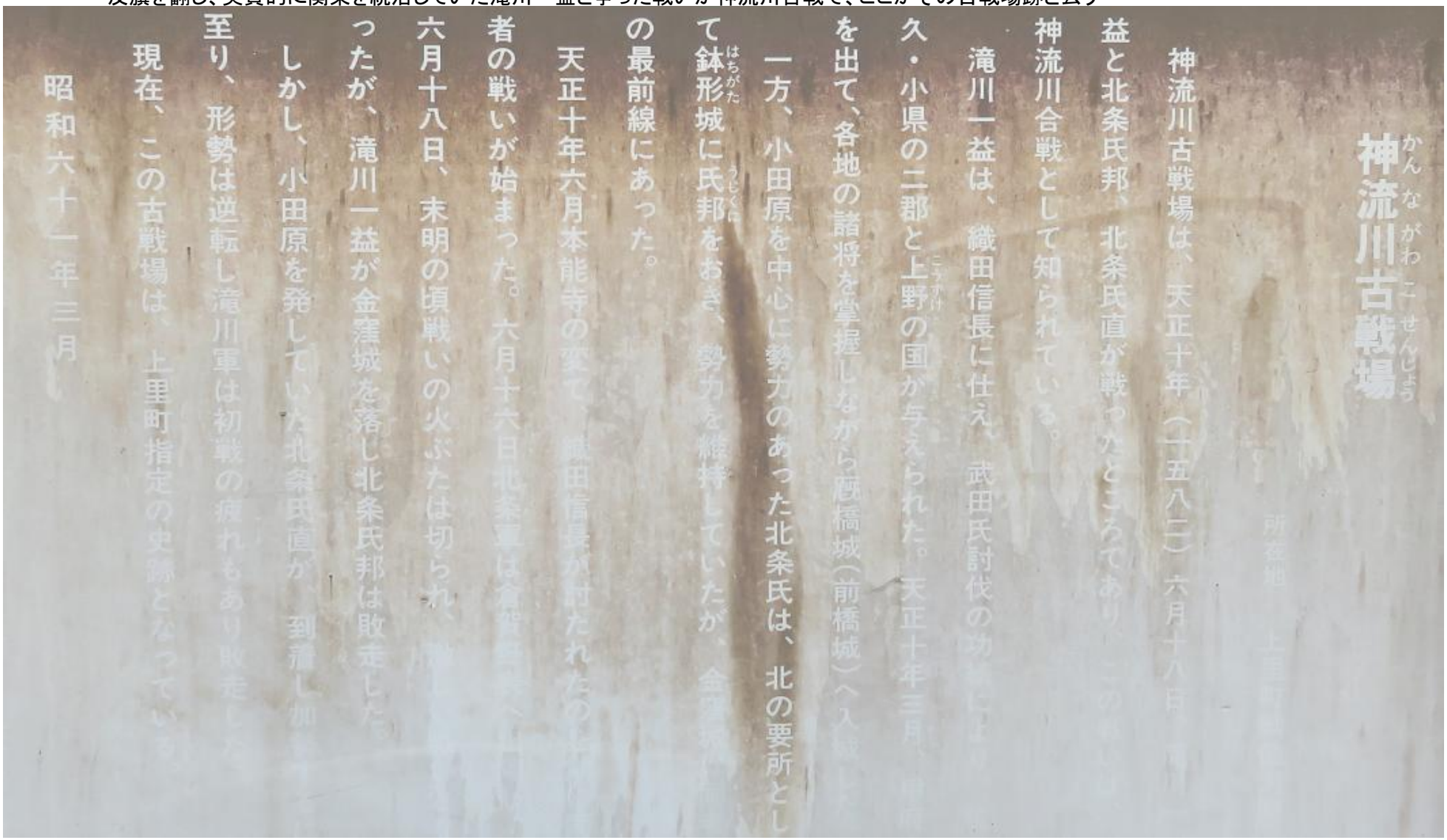
かんながわ

この神流川が武蔵国と上野国との境/この道路は17号線（中山道）で、ここから神流川を渡ると群馬県に入る

そこで右手を見たところ/左手が群馬県高崎市（旧多野郡新町）と埼玉県児玉郡上里町との境を流れる神流川

右手に説明坂が立っている

劣化していて良く読めない/天正10年（1582年）、本能寺の変で織田信長が横死すると、事実上信長に臣従していた小田原北条氏は織田軍に反旗を翻し、実質的に関東を統治していた滝川一益と争った戦いが神流川合戦で、ここがその古戦場跡と云う



神流川古戦場（かんながわこせんじょう）

所在地　上里町

神流川古戦場は、天正十年（一五八二）六月十八日、益と北条氏邦、北条氏直が戦ったところであり、この神流川合戦として知られている。

滝川一益は、織田信長に仕え、武田氏討伐の功により久・小県の二郡と上野（こうずけ）の国が与えられた。天正十年三月、甲州を出て、各地の諸将を掌握しながら厩橋城（前橋城）へ入城。

一方、小田原を中心に勢力のあった北条氏は、北の要所として鉢形（はちがた）城に氏邦（うじくに）をおき、勢力を維持していたが、金窪城の最前線にあった。

天正十年六月本能寺の変で、織田信長が討たれたのち、両者の戦いが始まった。六月十六日北条軍は倉賀野城へ、六月十八日、末明の頃戦いの火ぶたは切られ、激戦となったが、滝川一益が金窪城を落し北条氏邦は敗走した。

しかし、小田原を発していた北条氏直が、到着し加勢し至り、形勢は逆転し滝川軍は初戦の疲れもあり敗走した。

現在、この古戦場は、上里町指定の史跡となっている。

昭和六十一年三月

そこで神流川を見たところ/この両岸で双方が睨み合った

さて、橋を渡ってみよう/欄干手前に常夜燈が立っている

この「見送灯籠」のモチーフとなった武州側の常夜燈は、大光寺（上里町）に移築されていると記されている

神流川/北方向を見たところ/ここで神流川合戦が行われ、織田信長の重臣である滝川一益軍は左手（群馬県側）、小田原北条軍が右手（埼玉県側）に布陣、二日間に亘って合戦が繰り広げられた

神流川合戦布陣図/左手が滝川一益軍、右手が小田原北条軍/群馬県立歴史博物館刊行「織田信長と上野国」より/北勝場と記された辺りが最初の写真の場所/一番上の方の軍配山古墳と記された所に滝川一益が布陣し、軍配を振るったとされる

橋を渡り切って振り返って見たところ/こちら側にも常夜燈が立っている

そこから神流川を眺めたところ

これは群馬県に入った所にある説明板や記念碑

「神流川古戦場跡」と記されている

神流川合戦

天正十年（一五八二）六月十九日、織田信長が本能寺に倒れた直後、関東管領滝川一益は信長の仇を討たんと京へ志し、これに対し好機至りと北条氏は五万の大軍で神流川流域に進めた。滝川一益は義を重んじ勇猛の西上州軍一万六千を率いて、石をも燃ゆる盛夏の中死闘を展開し、滝川軍は戦死三千七百六十級の戦史に稀なる大激戦で『神流川合戦』と呼んでいる。後世古戦場に石碑を建立し、首塚、胴塚も史跡として残され東青頭にもうたわれ、神流の清流も今も変ることなく清らかに流れている。

両方の説明坂の要旨は、信長から東国の仕置きを命じられ、上野国に赴任したばかりの一益であったが、本能寺の変が勃発、それを知った小田原北条氏が上野国へ進攻するのを阻止するための戦いが、ここ神流川を挟んで二日間に亘り行われ、結果、一益は戦いに敗れ、伊勢へと敗走することとなる

神流川合戦古戦場

天正十年（一五八二）六月十六日から十九日にかけ、織田信長の関東管領として上州と信州の一部を治めた滝川一益と、相模国を中心に関東南部を所領としていた北条氏が神流川で戦いました。この戦は、信長が六月二日に京都本能寺で明智光秀に討たれた弔（とむら）いに出陣する一益を阻止し、関東の支配者の地位を勝ち取ろうとする小田原の北条氏が争った合戦で、「神流川合戦」と呼ばれます。

一万八千の瀧川・上州勢は当初優勢でしたが、北条軍も五万と言われる優位な戦力で勝利となりましたが、損害が多く小田原へ引き上げました。一益は上州諸将に協力を謝し別離の宴の後、厩橋を出立し領国伊勢へ向かいました。

この合戦は、戦死者が両軍合わせ四千余人を数え、戦国時代関東における最大の激戦と言われます。「炎熱石を焦し流水煮える中に阿鼻叫喚（あびきょうかん）の死闘であった」と伝えられます。

さて、ここは倉賀野城本丸跡（右手）の南側を流れる烏川/滝川一益軍はここから神流川合戦へと出陣した

ここが倉賀野城本丸跡で、現在は雁児童公園となっている/右手が天然の要害である烏川

「倉賀野城趾」と記された石碑や説明書きの銘坂がある/築城年代：鎌倉時代、築城者：倉賀野高俊

倉賀野城の縄張図/左手に倉賀野神社、中央下には井戸八幡が記されている

これは神流川合戦の際に、滝川一益がここに本陣を置き、軍配を振るったと伝えられていることから、軍配山古墳と名付けられた古墳/本来の名称は御幣山古墳

墳頂から南方向（神流川の合戦があった方向）を見たところ

さて、これは厩橋城本丸の西側を流れる利根川/天然の要害となっている

振り返って厩橋城跡の土塁を見たところ/西側から見たところ/戦いに敗れた滝川一益は一旦ここへ帰還し、すぐさま碓井峠から中仙道を通って本拠地である伊勢長島に帰ったと云う/築城年代：延徳年間（1489～92年）、築城者：長野賢忠

これは厩橋城内から高浜門方向を見たところ

「再築前橋城」復元図/左手が利根川

この「神流川の戦い」は、北条氏・徳川氏・上杉氏による空白地帯となった旧武田領の奪い合い、いわゆる「天正壬午の乱」のきっかけになった/
戦死者は「首塚八幡宮」(高崎市新町)と、その近くの「胴塚稲荷古墳」(藤岡市岡之郷)に手厚く葬られているという

参考ホームページ

https://senjp.com/kannagawa/

http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kp-kannagawa.html

https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/73550765dba49336f3619fcccf9d7d80

https://kojodan.jp/castle/1324/memo/3205.html

https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/58351062.html?__ysp=56We5rWB5bed5ZCI5oim5Y%2Bk5oim5aC0

http://fanblogs.jp/shirononagori/archive/75/0

http://maricopolo.cocolog-nifty.com/blog/2016/02/post-dae8.html

http://seinosuke2016blog.blog.fc2.com/blog-entry-75.html

http://shmz1975.cocolog-nifty.com/blog/2014/03/post-cef2.html

滝川
烏川緑地
立石
17
上武大 文
新町支所
藤岡JC
岡之郷
金久保
忍保
文
上里スマートIC
SA 上里
下戸塚
高崎線
神保原